

第5回福山駅前デザイン会議を開催

日時：2019年(令和元年)9月26日(木)15時～17時
場所：福山市役所 大会議室

「官民連携で福山駅前を歩いて楽しいまちなかに変える」をテーマに、意見交換を行いました。意見交換の際には、国土交通省中国地方整備局建政部都市・住宅整備課長より、ウォーカブル推進都市の制度などについて説明を頂きました。

次の福山駅前デザイン会議では、これまでのデザイン会議などの議論を踏まえ、(仮称)デザイン計画の素案を示す予定です。

国土交通省からの説明



- ▶ 国土交通省では、「ウォーカブル」をキーワードに施策を検討している。
- ▶ 8月26日時点でウォーカブル推進都市に160団体の賛同があった。
- ▶ 関連する予算制度や税制などを要求している。

- ▶ 例えば、まちなかウォーカブル区域内の道路交通を少なくするために、その周辺の道路整備や駐車場整備を重点的に支援する制度など。
- ▶ 税制においても、公共空間と一体となって使えるような民間の空間を整備した場合、固定資産税や都市計画税を減免する制度を検討している。
- ▶ ウォーカブルなまちづくりの実現に向けて、国土交通省都市局全体で本気で取り組んでいるところ。

意見交換の内容(コンテンツをつくる)

- ▶ 居心地が良く歩きたくなるまちなかをつくるためには、良いコンテンツが必要だ。
- ▶ コンテンツを考える際には、新しいビジネスモデルとなるか、都市経営課題に答えているか、そのまちならではの魅力を発信できているか、新しいビジネスの機会を生んでいるか、規制などのルールを変えるきっかけとなっているかなどをポイントに考えるとよい。
- ▶ ビジネスを継続させるためには、適切な経営指導などの対応が必要。具体的なサポートができるとよい。
- ▶ 空き店舗になったとしても、すぐ後にテナントが埋まるような状況が作れば良い。そのためには、公共空間を活用して、エリア価値を向上させることが必要。
- ▶ 福山駅周辺にはパンマルシェや毎土夜店など、魅力的なコンテンツが生まれてきている。

意見交換の内容(居心地が良く歩きたくなるまちなかをつくる)

- ▶ 居心地が良く歩きたくなるまちなかをつくるのがエリア価値の向上につながることは間違いない。福山市民のライフスタイルの変化に繋がっていくと良い。
- ▶ 市民が歩くことを習慣化させるプログラムが必要。
- ▶ 居心地が良く歩きたくなるまちには人が滞留するので情報も集まる。そして、その情報を求めて多様な人々が集まる。車で通り過ぎるまちは、人と人の接触がないため、情報が集まらない。情報集積という意味でも、居心地が良く歩きたくなるエリアをどこに設定するかは、戦略的に決めなければならない。
- ▶ 駅周辺に性格の違うエリアを何個つくるかによって、歩く目的がうまれ、歩きたくなるまちが出来る。
- ▶ 人が居心地良く歩いたりするには、人が隠れることができるような秘匿性のある空間づくりや官民の境目を曖昧にした空間づくりが大事だ。
- ▶ 官民の境目を曖昧にした空間づくりのためには、歩行空間を民地内につくるなどの民間投資が必要だが、民間は稼がない床に投資しない。民間投資を実現するためには、税制の優遇が必要だ。
- ▶ ウォーカブルなまちづくりはあくまで手段。歩くことで健康寿命が延びるとか、行政の財政の安定にもつながるなど、ウォーカブルなまちづくりの目的を広く捉えることが大事。

まとめ

- ▶ 毎土夜店のような賑わいのある通りが、いくつか生まれることでウォーカブルなまちに変わっていくだろう。
- ▶ 道路の使い方には、歩くだけでなく、たたずむ、留まる、座るといった使い方がある。
- ▶ 歩くことによって、直接的な人々の交流が生まれる。コミュニケーションの発生率の高い都市をめざすべきだ。
- ▶ 道路や公園などの公共型の公共空間とカフェやバルなどの民間型の公共空間がシームレスに繋がることが必要。

